

更新日：2022年3月22日

『統計的因果推論の理論と実装：潜在的結果変数と欠測データ』

(2022年3月15日 初版3刷)

正誤表

下記のとおり誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

Chapter 3 【38ページ】

表3.1aの有効割合： $156/280 = 0.557$

【誤】0.536

【正】0.557

謝辞：シラカワスキー氏 (https://twitter.com/shirakawa_love) のご指摘に感謝いたします。

Chapter 5 【69ページ】

上から16行目～17行目

【誤】では、式(5.5)は何だったのだろうか？ 式(5.5)では、 $\hat{\beta}_0$ を0に固定している。これを，原点を通る回帰 (regression through the origin) という。また，式(5.5)の $\hat{\beta}_1$ は，

【正】では，式(5.6)は何だったのだろうか？ 式(5.6)では， $\hat{\beta}_0$ を0に固定している。これを，原点を通る回帰 (regression through the origin) という。また，式(5.6)の $\hat{\beta}_1$ は，

謝辞：武田興欣先生（青山学院大学）のご指摘に感謝いたします。

Chapter 7 【103ページ】：2022年3月22日追記

脚注 11)

【誤】久保（2016, pp.68-91）

【正】久保（2012, pp.68-91）

謝辞：北野翔大さん（大阪大学大学院）のご指摘に感謝いたします。

Chapter 11 【159ページ】

脚注9)：当該書籍の奥付では「著作者 高遠 節夫 ほか5名」と記載されていましたが，五十音順では，新井・市川・高遠・野町・向山・村上（2013）となるため，参考文献の[156]と著者の順序を一致させるために修正いたします。

【誤】高遠他（2013, p.19）

【正】新井他（2013, p.19）

謝辞：武田興欣先生（青山学院大学）のご指摘に感謝いたします。

Chapter 12 【180ページ】

上から13行目および21行目

【誤】統計群の個体

【正】統制群の個体

謝辞：シラカワスキー氏 (https://twitter.com/shirakawa_love) のご指摘に感謝いたします。

Chapter 13 【185ページ】

上から5行目

【誤】岩崎, 2016

【正】岩崎, 2015

謝辞：シラカワスキー氏 (https://twitter.com/shirakawa_love) のご指摘に感謝いたします。

参考文献 【311ページ】

[208]

【誤】新生社

【正】新世社

謝辞：シラカワスキー氏 (https://twitter.com/shirakawa_love) のご指摘に感謝いたします。

『統計的因果推論の理論と実装：潜在的結果変数と欠測データ』

(2022年2月15日 初版1刷)

正誤表

下記のとおり誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。（なお、下記の誤りは、初版3刷では修正済みです。）

Chapter 7 【90ページ】

上から8行目：特に論理的な誤りではありませんが、本書では期待値の括弧は $[\cdot]$ を使っておりますので、他の箇所と括弧の種類を統一します。

【誤】 $E(\epsilon_i) = 0$

【正】 $E[\epsilon_i] = 0$

Chapter 7 【90ページ】

上から11行目：特に論理的な誤りではありませんが、本書では期待値の括弧は $[\cdot]$ を使っておりますので、他の箇所と括弧の種類を統一します。

【誤】 $E(u_i) = 0$

【正】 $E[u_i] = 0$

Chapter 7 【94ページ】

上から9行目

【誤】 Wooldridge, 2020, p.39, pp.374-677

【正】 Wooldridge, 2020, p.39, pp.674-677

Chapter 9 【135ページ】

上から10行目

【誤】 傾向スコアマッチングの利点については, 11.11

【正】 傾向スコアマッチングの利点については, 11.12

謝辞：中村大輝先生（広島大学）のご指摘に感謝いたします。

Chapter 15 【215ページ】

上から20行目

【誤】 実際に, 表15.3で計算したATE

【正】 実際に, 表 15.2 で計算した ATE

謝辞：浅野正彦先生（拓殖大学）のご指摘に感謝いたします。